

転職者 座談会

悩むなら、まずは一步
踏み出してみることに

株式会社ハセガワエスティ

年間1万組を超える婚礼司会を手掛けているプロ司会者集団・ハセガワエスティ。アナウンサーやレポーターの経験者のほかに、ウエディングプランナーや宴会キャプテン、企業総合職などからの転職組も活躍している。そこで今回は転職者を代表して3名に、プロの婚礼司会者、そしてハセガワエスティの魅力を語っていただいた。

一まず始めに、それぞれの経緯を教えてください。
奥山 私は音曲漫才コンビとして一世風靡した内海佳子・好江師匠の門下生として漫才師を目指していましたが、あえなく断念。門下生時代にアルバイトでウエディングプランナーの仕事をする中で、結婚式の素晴らしさに引かれるとともに、もっと視野を広く、現場をより深く知りたいと思い、婚礼司会の道をみいだしました。
中里 私は元々、司会者になることが夢でした。

学生時代もアナウンサーに通い、夢の実現に向かっていました。そして、まずはウエディングのことを知るためにプランナーとして約6年勤め、そして念願であった司会者になるために門戸をたたきました。

前田 私は福岡で流通支援系企業に勤めた後、司会をしていましたが、30歳にして上京し、婚礼司会の道を選択しました。学生時代、福岡のドレスショップでウエディングスタイリストとして、ご結婚が決まった方にドレスのアドバイスをしていました。この経験が次なる仕事を模索している時にふと頭に浮かび、よし！やってみよう！と思ったのがきっかけです。

一実際に転職されていかがですか。

中里 プランナーの時は作られたものをその範囲で販売することが仕事でした。ところが、司会者はニーズにあったものを結婚式本番で作りあげていくことが仕事です。たとえば“明るい雰囲気披露宴にしたい”というご要望があっ

た時に、“明るい”といってもお客さまによって求められている明るさが異なります。それを言葉として、表現として、また色としてお話をすることで、求めている明るさを理解し、そして当日、言葉や動作として表現していきます。とても奥深く、常日頃、自身の感性や知識を積み重ねられる素晴らしい仕事であることに、改めて気が付きました。

前田 お打ち合わせ、そして披露宴当日も常に幸せに満ち、プラスイオンがあふれている仕事であることに喜び、楽しさを感じます。また時間厳守、立ち居振る舞いなど、今ではきちんとできるようになりました。ビジネスとして、また女性としての基本的な所作を学べたことを実感します。司会者になってから仕事はもちろんのこと、プライベートにおいても友人からも“ずいぶん変わったね”と言われるようになりました。私自信も成長することの出来る仕事だと思えます。

一ところで、奥山さんは一家を守っていかねばならない男性として、司会という仕事に不安はありませんか。

奥山 企業に勤めた方が「安定」という点ではあるかもしれませんが。健康管理なども全て自信の責任でやらなくてはなりません。また将来的にずっと司会者として仕事が継続することが出来るのかという不安はあります。しかし、私が在籍しているハセガワエスティでは教育部がありますので、教えることを仕事にすることが出来ます。また、様々な方との出会い、そしてかわりが持てることは、サラリーマン生活にはない「財産」です。

一将来的にはどのようなことを考えていますか？

中里 はい。ずっと婚礼司会の仕事をしていきます。

前田 プランナーの要素も含めた、もっと自由なウエディングの提案とともに司会者として携わ

お話を伺った方々



奥山 シゲルさん



中里 ちひろさん



前田 明日香さん

りたいですね。以前、福岡でプランナーの仕事に携わっていた際に、馬で入場などユニークなウエディングも体験しています。そんな自由なスタイルです。エスティでは、ムニールコンセイユという資格があり、まさにMCでありプランナーであるという仕事の職域があるんです。

奥山 コメントのイノベーションをおこしたいですね。たとえば“ここで拍手を…”と言わなくとも、自然と拍手がおこるような、そんな言葉の改革をしたいですし、今もトライし続けています。

一では最後に、転職に悩んでいる方に一言おねがいします。

奥山・中里・前田 “悩むなら、まずは一步踏み出してみることに”です。